

2024年度(第69期)事業報告

2024年度(第69期)事業報告

財務諸表等 (1)貸借対照表

(2)貸借対照表内訳表

(3)損益計算書(正味財産増減計算書)

(4)正味財産増減計算書内訳表

(5)財務諸表に対する注記

(6)附属明細書

(7)財産目録

収支計算書 (1)収支計算書

(2)収支計算書に対する注記

2025年度(第70期)事業計画

2025年度(第70期)事業計画

収支予算書

維持会員一覧表

2025年5月

一般社団法人 日本トライボロジー学会

2024年度（第69期）事業報告

自 2024年4月 1日
至 2025年3月31日

1. 会員の異動状況

会 員 の 種 類		本期末会員数	前期末会員数	差 引 増 減
名 誉 会 員		17	17	0
正 会 員		2228	2257	▲29
学 生 会 員		415	405	10
維持 会 員	S 級	6	5	1
	A 級	8	8	0
	B 級	4	3	1
	C 級	11	12	▲1
	D 級	13	14	▲1
	E 級	121	121	0
	合 計	163	163	0
公 共 会 員		9	10	▲1

2. 事業の状況

(1) 行事

行 事 名	講演件数	参加者数	期 日	開催方法
第11回日中トライボロジー先端フォーラム	37	58	2024.4.14-16	対面 (姫路)
第68期2023年度評議委員会	—	39	2024.5.16	ハイブリッド (東京)
第68期定時社員総会	—	1190	2024.5.28	対面 (東京)
トライボロジー会議2024春東京	178	907	2024.5.27-29	対面 (東京)
トライボロジー入門講座	3	78	2024.7.11-12	ハイブリッド (東京)
6th Malaysia-Japan Tribology Symposium	32	45	2024.8.29-30	対面 (マレーシア)
Japan-Taiwan Tribology Symposium 2024	11	30	2024.10.18-20	対面 (台湾)
第2回日本トライボロジー学会絵画コンテスト	—	22	2024.10.27	公募
トライボロジー会議2024秋名護	326 (ポスター含む)	611	2024.10.30-11.1	対面 (名護)
第5回日韓トライボロジーシンポジウム	41	(トライボロジー 会議秋併催)	2024.10.30-11.1	対面 (名護)
ヤングトライボロジストシンポジウム	10	(トライボロジー 会議秋併催)	2024.10.30-11.1	対面 (名護)
トライボロジー応用講座 【設計編】【実験・計測編】	9	32	2024.11.7-8	ハイブリッド (東京)
第14回トライボロジー秋の学校	60 (ポスター含む)	68	2024.11.27-28	対面 (愛知)
学生会員向け企業情報提供 ートライボロジー企業バーチャル先輩訪問ー	17社	24	2024.12.17	オンライン

トライボロジー懇談会	1	23	2025. 1. 24	ハイブリッド (未定)
トライボロジー先端講座	4	23	2025. 2. 3	ハイブリッド (東京)
トライボロジー入門西日本講座	3	32	2025. 2. 19-20	ハイブリッド (大阪)
摩擦の科学×謎解き体験学習 (東大生研)	—	25	2025. 3. 1	対面 (東京)
維持会員企業交流会	—	15	2025. 3. 18	対面 (大阪)

- ・ トライボロジー会議 2024 春 東京は、昨年に続き対面方式で開催しました。講演件数は特別フォーラムを含めて 178 件、参加者数は 907 名となり、2015 年以降の春のトライボロジー会議では最多の参加者数となりました。今年度はコロナ禍前にほぼ戻った雰囲気で開催され、本会の特徴でもある対面での発表、討論や異分野業界の出会いの場としての価値が発揮されました。特別講演では、「ウェアラブルデバイスが切り拓く人間とコンピュータの新たな関係」と題し、神戸大学の寺田 努 教授にご講演をいただき、予定時間を過ぎても質疑が継続され、本分野に対する会員の注目度の高さが窺われました。なお、特別フォーラムに関しては、オンライン同時配信によるハイブリッド開催と後日アーカイブ配信を予定しておりましたが、当日のトラブルによりハイブリッド方式および配信ができなくなりました。現在の会場でハイブリッド開催を行う上での課題が明確となり、ハイブリッド方式の導入については引き続き検討していきます。
- ・ トライボロジー会議 2024 秋 名護は、2019 年から 5 年の歳月をかけ、学会バスや弁当の手配などの工夫を凝らして準備してきました。幸いなことに、直近で発生した台風も沖縄を避け、開催期間中の 3 日間は天候が崩れることなく、611 名もの会員に参加していただきました。本会議では、過去最高となる 10 テーマのシンポジウムが企画され、発表件数も過去最高の 326 件 (Japan-Korea Tribology Symposium のポスター 21 件含む) となり、活発な討論が行われました。特別講演は、2 件の講演を企画し、1 件目は、「楽しい大学の作り方」と題し、沖縄科学技術大学院大学の銅谷 賢治 教授に脳科学および人工知能に関する研究に関してご講演いただきました。2 件目には、沖縄の象徴的存在でもある首里城の 2019 年に発生した火災による美術工芸品をはじめとした文化財の被害状況とその復元に関する取り組みについて、「首里城美術工芸品の現状とこれから」と題し、沖縄美ら島財団の幸喜 淳 先生にご講演いただきました。さらに、イブニングフォーラムを開催し、沖縄美ら海水族館の概要とウミガメに関する研究について、「沖縄美ら海水族館におけるウミガメ飼育を通じた研究および教育活動」と題し、沖縄美ら島財団の河津 勲先生にご講演いただきました。いずれの講演も沖縄ならではの話題提供となりました。現地にトライボロジー関係者がいない初の実行委員会でしたが、このような開催を実施する場合のメリット/デメリットが明確になり、今後の地方開催地の参考となる試みとなりました。
- ・ 第 69 期における海外との 2 国間交流事業は、第 11 回日中トライボロジー先端フォーラム、6th Malaysia-Japan Tribology Symposium, Japan-Taiwan Tribology Symposium 2024, 第 5 回日韓トライボロジーシンポジウムを開催し、いずれも盛況でした。
- ・ 第 69 期に計画していた教育講座は、計画通り実施しました。入門講座、応用講座【設計編】および【実験・計測編】、先端講座、懇談会、西日本入門講座はハイブリッド方式で開催しました。各講座の受講者向けアーカイブオンデマンド配信の仕組みは完了し、手引書を作成することで継続的に推進していく体制を整えました。来期より各講座が順次リニューアルされる予定であり、第 70 期には入門講座のリニューアルを予定しております。
- ・ 若手同士の直接対話を重視する「秋の学校」は引き続き対面方式により 1 泊 2 日で開催し、学生や若手社員の交流の場として好評を得ました。

- ・ トライボロジー分野の学生と本会維持会員企業との接点増加を目的とし、「学生会員向け企業情報提供－トライボロジー企業先輩訪問－」をオンライン方式で開催しました。本年は 3 部構成とし、各社の PR が全学生に行き届く工夫を行いましたが、残念ながら途中退席者などの課題が明確となりました。今後、開催日時および方法を継続して検討し、学生と維持会員企業との懸け橋となるための活動を推進します。

(2) 会 誌

会誌「トライボロジスト」、電子版トライボロジスト (J-STAGE に掲載)、英文電子ジャーナル「Tribology Online」を発行しました。

「トライボロジスト」は 12 回発行し、ページ数は本文 791 ページ (69 巻 4 号～70 巻 3 号)、論文投稿件数 15 件、論文掲載数 17 件となりました。特集として、「カーボンニュートラルに貢献する自動車エンジンの機械要素部品」、「フラーレン添加油に関する研究事例と将来展望」、「高機能材料の最新動向とトライボロジー応用の可能性」、「圧縮機に関わるトライボロジー」、「触覚技術とトライボロジー」、「トライボロジーにおける IoT, AI の進展と活用事例」、「カーボンニュートラルに貢献する転がり軸受の技術動向」、「炭素系ナノ材料が切り拓くトライボロジー」、「摩擦面の最新分析技術」、「2025 年研究会が先導するトライボロジー分野の最新動向」、「自動車の電動化とトライボロジー」、「カーボンニュートラルに向けた燃料とその実用化の技術動向」を刊行しました。また、「トライボロジーを語る」、「トライボエピソード－博士号取得－、トライボエピソード－論文賞受賞－、トライボエピソード－技術賞受賞－、トライボエピソード－奨励賞受賞－、トライボエピソード－学生奨励賞－」の連載は継続して掲載しました。新しい取り組みとして、トライボロジストの電子ブック化の検討を開始し、2025 年 4 月号よりトライアル版の公開を予定しております。

Tribology Online は、Vol.19 Issue 2～Issue 6 および Vol.20 Issue 1 を発行し、ページ数は 398 ページとなりました。今期は、研究会を通じた特集号“Special Issue on Surface Texturing for Improving Tribological Properties”，および国際会議に関する特集号“Special Issue on ITC Fukuoka 2023 (Part 2)”を発刊しました。また、継続してジャーナルインパクトファクタ (JIF) の向上に向け、Emerging Sources Citation Index (ESCI) 掲載のための対応などを継続しています。

(3) 研 究 会

第 69 期は、学会指定研究会 (1)、産学協同研究会 (4)、会員提案研究会 (21) および地区研究会 (2) の計 28 の研究会が活動を行いました。

研 究 会 名	種 別	回 数	開催方法
カーボンニュートラルに寄与するトライボロジー技術研究会	学会指定	6	ハイブリッド
添加剤技術研究会	産学協同	4	対面
固体潤滑研究会	産学協同	3	対面、オンライン
グリース研究会	産学協同	5	ハイブリッド
転がり軸受寿命研究会	産学協同	3	対面、オンライン
エンジン潤滑研究会	会員提案	2	対面
転がり疲れ研究会	会員提案	1	対面
シール研究会	会員提案	3	対面
摩耗研究会	会員提案	1	対面
メンテナンス・トライボロジー研究会	会員提案	1	対面
塑性加工のトライボロジー研究会	会員提案	2	対面

トライボケミストリー研究会	会員提案	2	オンライン
自動車のトライボロジー研究会	会員提案	3	対面
アルミニウムのトライボロジー研究会	会員提案	2	対面
高分子材料のトライボロジー研究会	会員提案	3	対面，オンライン
“超”を目指す軸受技術研究会	会員提案	2	対面
スペーストライボロジー研究会	会員提案	0	－
分子シミュレーションのトライボロジーへの応用研究会	会員提案	1	オンライン
変速機のトライボロジー研究会	会員提案	3	対面
機能性コーティングの最適設計技術研究会	会員提案	2	対面
テクスチャリング表面のトライボロジー研究会	会員提案	3	対面
境界潤滑研究会	会員提案	1	対面
工作機械のトライボロジー研究会	会員提案	3	対面
トライボダイナミクス研究会	会員提案	1	対面
表面力研究会	会員提案	1	対面
水素のトライボロジー研究会	会員提案	3	対面
日本海トライボロジー研究会	地 区	2	対面
北海道トライボロジー研究会	地 区	1	対面

- ・ 第 69 期(2024 年度)の各研究会は，COVID-19 が収束し，積極的な活動が行われました．また，研究会に関する会計処理は，マニュアル化を行い例年以上にスムーズに処理されました．処理を進めるうえで，一部マニュアル外の処理が発生し，ガイドライン含めて見直しを進めております．
- ・ 学会指定研究会である「カーボンニュートラルに寄与するトライボロジー技術」研究会の活動は，2 年目を迎えました．同研究会は，過去，現在，未来にわたってカーボンニュートラルに寄与するトライボロジー技術を調査し，情報を整理して分野の方向性や課題を提案することを目的としています．この分野は維持会員企業にとって非常に注目されており，この 2 年間で，維持会員企業や関連する産業界のカーボンニュートラルに関する活動のヒアリングを実施してきました．3 年目である第 70 期に向けて，まとめの準備を実施し，各産業界におけるカーボンニュートラルの取組に対し，トライボロジーの重要性を再認識していただける活動としていく予定です．
- ・ 会員提案研究会の“分子シミュレーションのトライボロジーへの応用研究会”は，“トライボロジー技術への AI の活用（学会指定）”と発展的統合した研究会への変更を検討中であり，第 70 期からは研究会名を変更し，“トライボロジーの AI とシミュレーション研究会”となります．

（４）学 会 賞

トライボロジー分野における功績と業績ならびに本会の活動への貢献に基づき，厳正な審査により，功績賞，論文賞，技術賞，奨励賞，学生奨励賞，教育貢献賞の選考を行いました．

功績賞：4 名

論文賞：3 件（8 名）

技術賞：3 件（14 名）

奨励賞：4 名

学生奨励賞：10 名（トライボロジー会議春：5 名，トライボロジー会議秋：5 名）

教育貢献賞：1 名

(5) 主な取り組み

本学会の主な課題は、①会員サービスの充実による会員メリットの向上、②世界における日本のトライボロジーのプレゼンス向上、③学会運営の効率化と財政の健全化の3点であり、これら課題に対し、業務効率化と事業経費抑制を念頭におきつつ下記の活動に取り組みました。

[会員向けのサービス]

- ・ トライボロジー会議 2025 秋函館の開催準備を推進し、2026 秋の開催地を愛知県名古屋市に定め、実行委員会立ち上げの準備を開始しました。また、ハイブリッド開催を行う上での課題となっている開催会場に関しての検討を開始しました。
- ・ DX 化に関する学会の基本方針のもと、デジタル著作物による会員サービスの向上にむけて推進しました。特に、トライボロジーハンドブック第2版の電子出版、トライボロジストの電子ブック化、トライボロジー会議予稿集の一定期間後の無償化(Web 配布)などを進めており、会員増強施策とも合わせて推進していきます。
- ・ トライボロジーハンドブック第2版の準備では、臨時委員会、編集委員会と各編の主査が中心となり、出版社の選定、出版形態の検討を行いました。現在、各編の原稿は査読の段階であり、第70期に電子出版を目指して作業を進めています。
- ・ 学会出版物は、第70期に“潤滑グリースの基礎と応用”を予定し、その準備をグリース研究会が中心となって推進しています。その他の学会書籍に関する5ヶ年計画は、今後更新（見直し）を行っていきます。
- ・ 技術論文のオープン化への対応として、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスと即時オープンアクセスの関係を調査しました。トライボロジストの即時オープンアクセス対応に対応するため、投稿規程の改訂を行いました。
- ・ 評議委員への選出機会が少ない維持会員企業との意見交換を目的とした維持会員企業交流会を大阪大学で開催しました。参加いただいた維持会員企業の要望を学会運営に反映させると共に、ニーズをふまえた新しい形式での交流会の開催を検討していきます。
- ・ 学会の情報発信は、ホームページとメールマガジンを通して行い、講習会や研究会などのイベント情報を積極的に会員に発信しました。今後も会員に有益な情報展開を行っていきます。

[本会のプレゼンス向上]

- ・ Tribology Online (TROL) のジャーナルインパクトファクタ (JIF) の向上を目指し、Emerging Sources Citation Index (ESCI) 掲載のための対応、ジャーナルコンサルティングのフォローアップを継続的行いました。また、STLE との相互目次掲載、国際会議、2 国間交流、研究会などを通じた企画特集により、TROL への投稿促進と共に国内外のプレゼンス向上を目指した活動を継続します。
- ・ TROL は、本会に所属するトライボロジストが国際的な成果発信の場として貴重であり、今後も特集号の発行やレビュー記事の企画などによる JIF の更なる向上に向けた取組を推進します。
- ・ 国内でのトライボロジストの増加およびトライボロジーの発展を最終目標に、次世代教育活動を継続的に実施しました。東京大学生産技術研究所 次世代育成オフィスとの連携も含め摩擦の科学×謎解き理科教室を3回開催し、いずれの回も好評でした。また、子供向けイベントを充実させるため、絵画コンテストを継続しました。
- ・ 学会指定研究会“カーボンニュートラル(CN)に寄与するトライボロジー技術研究会”の活動を行い、維持会員企業の CN 推進のためにトライボロジー視点での戦略策定や機械装置のフリクションロス低減や寿命延伸、信頼性向上などの情報を共有し、各社のトライボロジストの支援を行いました。

[運営の効率化・健全化]

- ・ 会員が長期的に減少傾向にあることに加え、諸経費の高騰化も進んでおり、このまま放置すると学

会運営が厳しくなります。そのため、複数の効率化、経費削減、会員増施策を継続的に検討しています。第 69 期は、業務の効率化のため、コラボレーションプラットフォームとして導入した Microsoft Teams を理事会、各委員会、講習会や研究会で活用し、Web 会議を増やすことにより旅費の削減を行いました。また、役員選挙の電子投票化を行い、投票に関する費用の削減と共に開票時の工数削減などの効率化を推進しました。

- ・ 事務局職員の働き方改革を目的の一つとして、業務の棚卸と就業規則の改訂を行っております。就業規則に関しては、専門家に委託することで法律に沿った内容に改訂中です。また、事務局内の書類の整理を行い、事務所の有効活用の検討を開始しました。
- ・ 倫理委員会より各規程を所轄する委員会に見直しを依頼し、実際の内容に沿った規程となるように改訂を行っています。また、会員に公開すべき規程の選択を行いました。
- ・ ガバナンス強化のため問題発生時の対応に関して、応対者、連絡フローを明確にするためのガイドラインを制定しました。また、コンプライアンスの観点から個人情報の取り扱いに関しての方針を決定しました。

[70 周年に向けての取組]

- ・ 70 周年の記念事業に関して臨時委員会で検討を開始しました。トライボロジストの特集号発刊（企業トップインタビュー、座談会、記念寄稿など）、70 周年記念小冊子の作成、記念表彰などを提案し、各タスクを WG として推進する体制を構築しました。

I 財務諸表等
(1) 貸借対照表

貸借対照表
2025年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	46,244,595	61,383,447	△ 15,138,852
仮払金	3,853,478	4,060,563	△ 207,085
未収入金	1,194,776	1,008,500	186,276
前払費用	51,500	272,244	△ 220,744
流動資産合計	51,344,349	66,724,754	△ 15,380,405
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	5,000,000	5,000,000	0
基本財産合計	5,000,000	5,000,000	0
(2) 特定資産			
国際活動積立資産	60,137,305	45,869,006	14,268,299
トライボロジーみらい資産	43,331,945	52,309,173	△ 8,977,228
退職給付引当資産	2,441,111	1,851,528	589,583
特定資産合計	105,910,361	100,029,707	5,880,654
(3) その他固定資産			
ソフトウェア	8,912,959	10,512,843	△ 1,599,884
敷金	1,046,040	1,046,040	0
その他固定資産合計	9,958,999	11,558,883	△ 1,599,884
固定資産合計	120,869,360	116,588,590	4,280,770
資産合計	172,213,709	183,313,344	△ 11,099,635
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,008,425	5,515,943	△ 3,507,518
未払費用	1,217,344	1,147,140	70,204
前受金	377,000	1,188,000	△ 811,000
前受会費	2,200,200	3,582,600	△ 1,382,400
仮受金	900	0	900
流動負債合計	5,803,869	11,433,683	△ 5,629,814
2. 固定負債			
退職給付引当金	2,441,111	1,851,528	589,583
固定負債合計	2,441,111	1,851,528	589,583
負債合計	8,244,980	13,285,211	△ 5,040,231
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	600,000	600,000	0
(うち基本財産への充当額)	600,000	600,000	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	163,368,729	169,428,133	△ 6,059,404
(うち特定資産への充当額)	4,400,000	4,400,000	0
(うち特定資産への充当額)	103,469,250	98,178,179	5,291,071
正味財産合計	163,968,729	170,028,133	△ 6,059,404
負債及び正味財産合計	172,213,709	183,313,344	△ 11,099,635

(2) 貸借対照表内訳表

貸借対照表内訳表
2025年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	会誌および図書の発行	講座・セミナー育成	法人会計	内部取引消去	合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	0	0	46,244,595	0	46,244,595
仮払金	0	0	3,853,478	0	3,853,478
未収入金	750,800	0	443,976	0	1,194,776
前払費用	0	0	51,500	0	51,500
流動資産合計	750,800	0	50,593,549	0	51,344,349
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
定期預金	0	0	5,000,000	0	5,000,000
基本財産合計	0	0	5,000,000	0	5,000,000
(2) 特定資産					
国際活動積立資産	0	0	60,137,305	0	60,137,305
トライボロジーみらい資産	0	0	43,331,945	0	43,331,945
退職給付引当資産	0	0	2,441,111	0	2,441,111
特定資産合計	0	0	105,910,361	0	105,910,361
(3) その他固定資産					
ソフトウェア	0	0	8,912,959	0	8,912,959
敷金	0	0	1,046,040	0	1,046,040
その他固定資産合計	0	0	9,958,999	0	9,958,999
固定資産合計	0	0	120,869,360	0	120,869,360
資産合計	750,800	0	171,462,909	0	172,213,709
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金	1,369,633	0	638,792	0	2,008,425
未払費用	0	0	1,217,344	0	1,217,344
前受金	0	0	377,000	0	377,000
前受会費	0	0	2,200,200	0	2,200,200
仮受金	0	0	900	0	900
流動負債合計	1,369,633	0	4,434,236	0	5,803,869
2. 固定負債					
退職給付引当金	0	0	2,441,111	0	2,441,111
固定負債合計	0	0	2,441,111	0	2,441,111
負債合計	1,369,633	0	6,875,347	0	8,244,980
III 正味財産の部					
1. 指定正味財産					
指定正味財産合計	0	0	600,000	0	600,000
(うち基本財産への充当額)	0	0	600,000	0	600,000
2. 一般正味財産	△ 618,833	0	163,987,562	0	163,368,729
(うち基本財産への充当額)	0	0	4,400,000	0	4,400,000
(うち特定資産への充当額)	0	0	103,469,250	0	103,469,250
正味財産合計	△ 618,833	0	164,587,562	0	163,968,729
負債及び正味財産合計	750,800	0	171,462,909	0	172,213,709

(3) 正味財産増減計算書

正味財産増減計算書

2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

(単位: 円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用収入	2,480	154	2,326
入会金収入	4,000	61,000	△ 57,000
会費収入	48,806,400	48,449,800	356,600
正会員会費収入	19,425,600	19,766,400	△ 340,800
維持会員会費	29,200,000	28,480,000	720,000
公共会員会費	180,800	203,400	△ 22,600
事業収益	43,116,113	109,949,411	△ 66,833,298
出版物頒布収入	1,401,877	1,157,254	244,623
広告料収入	3,403,000	4,165,000	△ 762,000
講演会・講習会収入	34,825,144	97,005,645	△ 62,180,501
印税収入	393,908	736,802	△ 342,894
研究会収入	3,092,184	6,884,710	△ 3,792,526
雑収益	32,930	73,378	△ 40,448
受取利息	3,008	1,365	1,643
雑収入	29,922	72,013	△ 42,091
経常収益計	91,961,923	158,533,743	△ 66,571,820
(2) 経常費用			
事業費	54,553,271	102,011,790	△ 47,458,519
会誌出版事業費	19,422,015	19,080,737	341,278
研究会費用	4,523,389	7,981,432	△ 3,458,043
講演会講習会費用	24,391,666	66,945,876	△ 42,554,210
英文オンライン出版費	3,916,330	4,509,890	△ 593,560
会議費	2,299,871	3,493,855	△ 1,193,984
管理費	43,468,056	44,874,447	△ 1,406,391
給与手当	21,952,592	21,740,981	211,611
退職給付費用	589,583	528,482	61,101
外注費	2,135,540	2,135,540	0
会議費	1,649,277	1,959,184	△ 309,907
表彰関連費用	1,262,024	953,810	308,214
維持会員企業交流会	180,651	128,721	51,930
若手シンポジウム	200,000	0	200,000
機械系学協会会長懇談会幹事	0	159,380	△ 159,380
旅費交通費	4,100	0	4,100
通信運搬費	1,120,359	1,044,171	76,188
消耗品費	269,754	307,319	△ 37,565
印刷製本費	309,647	350,402	△ 40,755
共益費	879,943	815,796	64,147
賃借料	2,606,616	2,674,116	△ 67,500
租税公課	1,200,400	3,112,900	△ 1,912,500
負担金支出	2,287,184	1,881,844	405,340
リース料	1,373,646	1,350,624	23,022
支払手数料	1,049,529	896,972	152,557
減価償却費	4,261,224	4,804,417	△ 543,193
雑費	135,987	29,788	106,199
経常費用計	98,021,327	146,886,237	△ 48,864,910
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 6,059,404	11,647,506	△ 17,706,910
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 6,059,404	11,647,506	△ 17,706,910
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 6,059,404	11,647,506	△ 17,706,910
一般正味財産期首残高	169,428,133	157,780,627	11,647,506
一般正味財産期末残高	163,368,729	169,428,133	△ 6,059,404
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	600,000	600,000	0
指定正味財産期末残高	600,000	600,000	0
III 正味財産期末残高	163,968,729	170,028,133	△ 6,059,404

(4) 正味財産増減計算書内訳表

正味財産増減計算書内訳表
2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	会誌および図書 の発行	講座・セミナー 育成	法人会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用収入	0	0	2,480	0	2,480
入会金収入	0	0	4,000	0	4,000
会費収入	0	0	48,806,400	0	48,806,400
正会員会費収入	0	0	19,425,600	0	19,425,600
維持会員会費	0	0	29,200,000	0	29,200,000
公共会員会費	0	0	180,800	0	180,800
事業収益	5,198,785	37,917,328	0	0	43,116,113
出版物頒布収入	1,401,877	0	0	0	1,401,877
広告料収入	3,403,000	0	0	0	3,403,000
講演会・講習会収入	0	34,825,144	0	0	34,825,144
印税収入	393,908	0	0	0	393,908
研究会収入	0	3,092,184	0	0	3,092,184
雑収益	0	0	32,930	0	32,930
受取利息	0	0	3,008	0	3,008
雑収入	0	0	29,922	0	29,922
経常収益計	5,198,785	37,917,328	48,845,810	0	91,961,923
(2) 経常費用					
事業費	25,213,053	29,340,218	0	0	54,553,271
会誌出版事業費	19,422,015	0	0	0	19,422,015
研究会費用	0	4,523,389	0	0	4,523,389
講演会講習会費用	0	24,391,666	0	0	24,391,666
英文オンライン出版費	3,916,330	0	0	0	3,916,330
会議費	1,874,708	425,163	0	0	2,299,871
管理費	0	0	43,468,056	0	43,468,056
給与手当	0	0	21,952,592	0	21,952,592
退職給付費用	0	0	589,583	0	589,583
外注費	0	0	2,135,540	0	2,135,540
会議費	0	0	1,649,277	0	1,649,277
表彰関連費用	0	0	1,262,024	0	1,262,024
維持会員企業交流会	0	0	180,651	0	180,651
若手シボジウム	0	0	200,000	0	200,000
旅費交通費	0	0	4,100	0	4,100
通信運搬費	0	0	1,120,359	0	1,120,359
消耗品費	0	0	269,754	0	269,754
印刷製本費	0	0	309,647	0	309,647
共益費	0	0	879,943	0	879,943
賃借料	0	0	2,606,616	0	2,606,616
租税公課	0	0	1,200,400	0	1,200,400
負担金支出	0	0	2,287,184	0	2,287,184
リース料	0	0	1,373,646	0	1,373,646
支払手数料	0	0	1,049,529	0	1,049,529
減価償却費	0	0	4,261,224	0	4,261,224
雑費	0	0	135,987	0	135,987
経常費用計	25,213,053	29,340,218	43,468,056	0	98,021,327
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 20,014,268	8,577,110	5,377,754	0	△ 6,059,404
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 20,014,268	8,577,110	5,377,754	0	△ 6,059,404
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 20,014,268	8,577,110	5,377,754	0	△ 6,059,404
他会計振替額	△ 19,900,423	8,577,110	11,323,313	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 113,845	0	△ 5,945,559	0	△ 6,059,404
一般正味財産期首残高	△ 504,988	0	169,933,121	0	169,428,133
一般正味財産期末残高	△ 618,833	0	163,987,562	0	163,368,729
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	600,000	0	600,000
指定正味財産期末残高	0	0	600,000	0	600,000
III 正味財産期末残高	△ 618,833	0	164,587,562	0	163,968,729

(5) 財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却の方法
ソフトウェア
定額法によっている。
- (2) 引当金の計上基準
退職給付引当金
職員の退職給付に備えるため、当年度末における要支給額に基づき計上している。
- (3) リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンスリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理方法によっている。
- (4) 消費税等の会計処理
税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	5,000,000	0	0	5,000,000
小 計	5,000,000	0	0	5,000,000
特定資産				
国際活動積立資産	45,869,006	14,268,299	0	60,137,305
トライボロジーみらい資産	52,309,173	43,331,945	52,309,173	43,331,945
退職給付引当資産	1,851,528	589,583	0	2,441,111
小 計	100,029,707	58,189,827	52,309,173	105,910,361
合 計	105,029,707	58,189,827	52,309,173	110,910,361

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	5,000,000	(600,000)	(4,400,000)	(0)
小 計	5,000,000	(600,000)	(4,400,000)	(0)
特定資産				
国際活動積立資産	60,137,305	(0)	(60,137,305)	(0)
トライボロジーみらい資産	43,331,945	(0)	(43,331,945)	(0)
退職給付引当資産	2,441,111	(0)	(0)	(2,441,111)
小 計	105,910,361	(0)	(103,469,250)	(2,441,111)
合 計	110,910,361	(600,000)	(107,869,250)	(2,441,111)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高(直接法により減価償却を行っている場合)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
ソフトウェア	27,238,513	18,325,554	8,912,959
合 計	27,238,513	18,325,554	8,912,959

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
コンベンション開催歓迎事業	沖縄観光コンベンション ビューロー	—	3,000,000	3,000,000	—
合 計		—	3,000,000	3,000,000	—

(6) 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記に記載しているため、記載を省略している。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	1,851,528	589,583	0	0	2,441,111

(7) 財産目録

財産目録
2025年 3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目 場所・物量・使用目的等		金 額
(流動資産)		
	普通預金	41,596,784
	みずほ銀行虎ノ門支店	31,584,330
	三菱UFJ銀行本店	10,012,454
	郵便貯金	208,263
	振替貯金	1,439,548
	定期貯金	3,000,000
	ゆうちょ銀行	3,000,000
	仮払金	3,853,478
	切手残高	29,803
	会員提案研究会	3,772,049
	地区研究会	51,626
	未収入金	1,194,776
	会誌出版費(別刷り代)	124,300
	広告料収入	626,500
	消費税還付金	391,200
	その他	52,776
	前払費用	51,500
	東京経営管理協会	49,500
	化学情報協会年会費	2,000
流動資産合計		51,344,349
(固定資産)		
基本財産	定期預金	5,000,000
	三井住友信託銀行本店	5,000,000
特定資産	国際活動積立資産	60,137,305
	三菱UFJ銀行本店	60,137,305
	トライボロジーみらい資産	43,331,945
	三井住友銀行浜松町支店	43,331,945
	退職給付引当資産	2,441,111
	みずほ銀行神谷町支店	2,441,111
その他固定資産	ソフトウェア	8,912,959
	敷金	1,046,040
固定資産合計		120,869,360
資産合計		172,213,709
(流動負債)		
	未払金	2,008,425
	会誌出版費	1,369,633
	業務管理システム(EM/PM)利用料	396,660
	会員管理システム 利用料	171,105
	コピー費用	24,818
	電話代	39,490
	その他	6,719
	未払費用	1,217,344
	未払賞与	1,217,344
	前受金	377,000
	トライボロジー会議2025春	377,000
	前受会費	2,200,200
	正会員会費	1,377,600
	維持会員会費	800,000
	公共会員会費	22,600
	仮受金	900
	その他	900
流動負債合計		5,803,869
(固定負債)		
	退職給付引当金	2,441,111
固定負債合計		2,441,111
負債合計		8,244,980
正味財産		163,968,729

Ⅱ 収支計算書

(1) 収支計算書

収支計算書

2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	決算額
I 事業活動収支の部	
1. 事業活動収入	
基本財産運用収入	2,480
入会金収入	4,000
会費収入	48,806,400
正会員会費収入	19,425,600
維持会員費収入	29,200,000
公共会員費収入	180,800
事業収入	43,116,113
出版物頒布収入	1,401,877
広告料収入	3,403,000
講演会講習会収入	34,825,144
印税収入	393,908
研究会収入	3,092,184
雑収入	32,930
受取利息	3,008
雑収入	29,922
事業活動収入計	91,961,923
2. 事業活動支出	
事業費支出	54,553,271
会誌出版事業費	19,422,015
研究会支出	4,523,389
講演会講習会支出	24,391,666
英文オンライン出版費	3,916,330
会議費	2,299,871
管理費支出	38,617,249
給与手当	21,952,592
外注費	2,135,540
会議費	1,649,277
表彰関連支出	1,262,024
維持会員企業交流会	180,651
若手シンポジウム	200,000
旅費交通費	4,100
通信運搬費	1,120,359
消耗品費	269,754
印刷製本費	309,647
共益費	879,943
賃借料	2,606,616
租税公課	1,200,400
負担金支出	2,287,184
リース料	1,373,646
支払手数料	1,049,529
雑費	135,987
事業活動支出計	93,170,520
事業活動収支差額	△ 1,208,597
II 投資活動収支の部	
1. 投資活動収入	
特定資産取崩収入	52,309,173
トライボロジーみらい資産取崩収入	52,309,173
投資活動収入計	52,309,173
2. 投資活動支出	
特定資産取得支出	58,189,827
退職給付引当資産取得支出	589,583
国際活動積立資産取得支出	14,268,299
トライボロジーみらい資産取得支出	43,331,945
固定資産取得支出	2,661,340
ソフトウェア取得支出	2,661,340
投資活動支出計	60,851,167
投資活動収支差額	△ 8,541,994
III 財務活動収支の部	
1. 財務活動収入	
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0
IV 予備費支出	
当期収支差額	△ 9,750,591
前期繰越収支差額	55,291,071
次期繰越収支差額	45,540,480

(2) 収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、下記の科目を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

現金預金
 仮払金
 未収入金
 前払費用
 未払金
 未払費用
 前受金
 前受会費
 仮受金

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	61,383,447	46,244,595
仮払金	4,060,563	3,853,478
未収入金	1,008,500	1,194,776
前払費用	272,244	51,500
合 計	66,724,754	51,344,349
未払金	5,515,943	2,008,425
未払費用	1,147,140	1,217,344
前受金	1,188,000	377,000
前受会費	3,582,600	2,200,200
仮受金	0	900
合 計	11,433,683	5,803,869
次期繰越収支差額	55,291,071	45,540,480

2025年度（第70期）事業計画

1. 行事予定

行 事 名	期 日	開催方法（開催場所）	摘 要
第12回日中トライボロジー先端フォーラム	2025.4.11-13	対面（中国）	第12回
第69期2024年度評議委員会	2025.5.9	ハイブリッド（東京）	
第69期定時社員総会	2025.5.27	対面（東京）	
トライボロジー会議 2025 春東京	2025.5.26-28	対面（東京）	
トライボロジー入門講座	2025.7(予定)	ハイブリッド（東京）	第56回
学生会員向け企業情報提供 ートライボロジー企業バーチャル先輩訪問ー	2025.8(予定)	オンライン	第6回
Japan-Taiwan Tribology Symposium 2025	2025 秋(予定)	対面(石川)	
トライボロジー会議 2025 秋函館	2025.10.8-10	対面（函館）	
ヤングトライボロジストシンポジウム	2025.10(予定)	対面（函館）	
チェコ-日本トライボロジーワークショップ	2025.10.21-23	対面（チェコ）	第5回
トライボロジー秋の学校	2025 秋(予定)	対面（未定）	第15回
トライボロジー応用講座【設計編】【実験・計測編】	2025.12(予定)	ハイブリッド（未定）	第7回
トライボロジー先端講座	2025 秋(予定)	ハイブリッド（未定）	第71回
トライボロジー懇談会	2026.1（予定）	ハイブリッド（未定）	第462回
トライボロジー入門西日本講座	2026.2（予定）	ハイブリッド（未定）	第18回
維持会員企業交流会	未定	未定	第6回

- ・トライボロジー会議 2025 春東京ならびにトライボロジー会議 2025 秋函館は対面方式で開催します。また、トライボロジー会議 2025 秋函館では、若手同士が交流を深める機会として、ヤングトライボロジストシンポジウムを計画します。
- ・教育講座は、原則ハイブリッド方式による開催を企画しています。
- ・国際交流として、第12回日中トライボロジー先端フォーラム、チェコ-日本 トライボロジーワークショップ、Japan-Taiwan Tribology Symposium 2025 を開催する予定です。

2. 会 誌

会誌「トライボロジスト」を毎月発行します。2025年4月より電子ブックの試行を開始しており、2026年4月に本格移行する予定です。第70期の特集は、「歯車・ボールねじ・チェーンの機能向上に関する技術動向」、「化学機械研磨とトライボロジー」、「樹脂しゅう動材の技術動向」、「高速動力伝達装置のトライボロジー課題とその対策」、「原子スケールからメソスケールまでのトライボロジーシミュレーション」、「カーボンニュートラルに貢献する潤滑剤」、「ゴムの摩擦」、「未来をひらく若手トライボロジスト」、「トライボロジーを支える可視化技術(3)」、「トライボロジー技術へのAIの活用を考える研究」、「研究会がリードするトライボロジー分野の最新動向(2026)」、「摩擦場の可視化技術 or 計測技術(仮)」を計画しています。また、Tribology Online は、例年どおりの年間4号以上の発行を予定しております。

3. 研 究 会

第 70 期は、学会指定研究会(1)、産学協同研究会(4)、会員提案研究会(21)および地区研究会(2)の計 28 の研究会が活動を行います。各研究会の活動内容の見える化ならびに研究戦略や将来展望などの情報の共有化を目的に、トライボロジスト 1 月号での定期特集記事化を継続します。

学 会 指 定 研 究 会：カーボンニュートラルに寄与するトライボロジー技術研究会

産 学 協 同 研 究 会：添加剤技術研究会，固体潤滑研究会，グリース研究会，転がり軸受寿命研究会

会 員 提 案 研 究 会：エンジン潤滑研究会，転がり疲れ研究会，シール研究会，摩耗研究会，メンテナンス・トライボロジー研究会，塑性加工のトライボロジー研究会，トライボケミストリー研究会，自動車のトライボロジー研究会，アルミニウムのトライボロジー研究会，高分子材料のトライボロジー研究会，“超”を目指す軸受技術研究会，スペーストライボロジー研究会，トライボロジーの AI とシミュレーション研究会，変速機のトライボロジー研究会，機能性コーティングの最適設計技術研究会，境界潤滑研究会，工作機械のトライボロジー研究会，トライボダイナミクス研究会，表面力研究会，水素のトライボロジー研究会，トライボ AE センシング研究会(新規追加)

地 区 研 究 会：日本海トライボロジー研究会，北海道トライボロジー研究会

4. 学 会 賞

トライボロジー分野における功績と業績ならびに本会の活動への貢献に基づき、功績賞，論文賞，技術賞，奨励賞，学生優秀プレゼンテーション賞，教育貢献賞，学会活動貢献賞の選考を行います。なお，学会活動貢献賞は，会員サービスの向上等に多大な貢献を果たした個人またはグループを表彰するものであり，第 70 期から理事会推薦で開始する新しい取り組みとなります。

5. 主な取り組み

会員サービスの更なる向上，本会のプレゼンス向上，運営の効率化・健全化に向けて，下記の活動に取り組みます。

〔会員向けのサービス〕

- ・論文，解説記事，予稿集，トライボロジーハンドブック，トライボロジストなどに関して，デジタル著作物による会員サービスの向上をはかります。本取組を広く周知する機会として，70 周年記念行事を活用した広報活動を推進します。
- ・第 70 期よりトライボロジー会議予稿集を会議開催の半年後に無料で一般公開を行います。広くトライボロジー学会に興味を持っていただくと共に新規性のある情報をタイムリーに発信することにより，会員サービス向上と会員増強をはかります。
- ・第 70 期は，トライボロジーハンドブック第 2 版，潤滑グリースの基礎と応用第 2 版を発刊予定としております。発刊に向け編集活動と出版準備を進めます。また，学会が関わる書籍出版の 5 ヶ年計画の見直しを行い，出版計画に基づいた出版支援を行う予定です。
- ・トライボロジー会議 2025 春東京において，子育て支援施策を実施します。第 69 期に始めた託児所利用料金の補助に加え，親子休憩室の設置，子ども同伴での参加を可能とすることにより，子育て世代に配慮した会議運営を目指します。
- ・講習会等は，ハイブリッド方式での開催を継続し，参加者の満足度を確保しながら経費削減に努めます。ラボツアー，VR 展示，企業展示などを活用し，現地参加ならではの魅力向上をはかります。また，教育講座は，リニューアルを推進していきます。入門講座は第 70 期に，応用講

座は第 71 期にそれぞれ計画しておりますので、是非ご参加をお願い致します。

- ・若手トライボロジストの交流の場として、若手シンポジウムや秋の学校などを開催し、若手会員の増強ならびに本会活動の活性化を目指します。

[本会のプレゼンス向上]

- ・次世代教育活動の一環として、体験学習、企業見学会、他機関主催行事への出展などを活用し、多様な観点からの取り組みを継続します。
- ・本会に関連した機械系学協会、教育機関や科学館などの機関との連携を継続的に強化します。
- ・リーフレットを用いた学会の周知活動を強化し、個人、維持会員や公共会員の入会を促します。
- ・Tribology Online のジャーナルインパクトファクタ (JIF) の向上のための施策を継続します。特集号の発行やレビュー記事の企画などと併せて、校閲プロセスの一層の効率化と迅速化を推進し、より質の優れた論文の掲載を目指します。
- ・海外の主要な学会 (STLE, GfT) との連携強化および主要な国際会議 (WTC, Asiatrib, STLE annual meeting, Leeds-Lyon) における本会のプレゼンス向上を目指し、関係者と引き続き協議を行います。また、STLE と Early Career Tribologists Symposium の合同開催について協議を継続します。2 国間交流事業としては、4 月に中国武漢市で開催される第 12 回日中トライボロジー先端フォーラムをはじめ、チェコ-日本 トライボロジーワークショップ, Japan-Taiwan Tribology Symposium 2025 などの開催を予定しています。
- ・本会の英語版ホームページを更新・拡充し、本会の国際的プレゼンス向上をはかります。

[運営の効率化・健全化]

- ・臨時委員会が横串となり、関係委員会協力のもと、DX 化に関する学会の基本方針を策定し、デジタル著作物による会員サービス向上の実現を目指します。
- ・現状の学会の財務状況は厳しく、財務委員会による計画のもと改善活動を継続します。トライボロジストの電子ブック化は、会員サービス向上のみならず財務改善策の一つでもあり、ペーパーレスによる経費削減効果が期待できます。
- ・IT システムへの投資効果を高めるため、計画的なシステム改修を行い、将来的な業務システム改修、新規ベンダーなどの検討を開始します (中長期的取組)。また、情報セキュリティルールの策定、物理的セキュリティ対策を推進していきます。
- ・本会の運営の改善や変更、世の中の動向に伴い、規程類の見直しを随時行うとともに、最新の規程類が円滑に浸透する良好なガバナンス状態を目指します。

[70 周年記念事業]

- ・学会が 70 周年を迎えるにあたり、70 周年を学会全体として祝えるよう、各委員会提案のもと記念行事を検討していきます。具体的には、70 周年記念事業 WG を立ち上げ、トライボロジスト 70 周年記念特集号、記念小冊子、記念表彰などの 70 周年記念事業を推進します。
- ・トライボロジスト 70 周年記念特集号は、企業トップインタビュー、特別寄稿、テーマごとの座談会を企画し、今後のトライボロジー分野ならびに学会の進む方向の一つを示します。
- ・記念小冊子では、これまでのトライボロジー学会を振り返ると共に、トライボロジスト 70 周年記念号と連動した記事を掲載します。本記念小冊子を活用し、トライボロジー学会のプレゼンス向上、会員増強にも努めてまいります。
- ・長年トライボロジー学会に参画し、支えてきてくださった方々に対し、記念表彰を企画します。

収支予算書

収支予算書

2025年 4月 1日から2026年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用収入	2,341	163	2,178
会費収入	49,601,600	48,986,000	615,600
正会員会費収入	20,160,000	20,160,000	0
維持会員会費	29,080,000	28,600,000	480,000
公共会員会費	361,600	226,000	135,600
事業収益	34,157,098	42,056,940	△ 7,899,842
出版物頒布収入	1,000,000	480,000	520,000
広告料収入	3,940,000	4,500,000	△ 560,000
講演会・講習会収入	26,952,100	32,677,900	△ 5,725,800
印税収入	384,998	1,058,040	△ 673,042
研究会収入	1,880,000	3,341,000	△ 1,461,000
雑収益	35,609	11,241	24,368
受取利息	3,610	45	3,565
雑収入	31,999	11,196	20,803
経常収益計	83,796,648	91,054,344	△ 7,257,696
(2) 経常費用			
事業費	62,072,522	63,085,378	△ 1,012,856
会誌出版事業費	17,097,600	16,150,000	947,600
研究会費用	3,810,000	4,325,000	△ 515,000
講演会講習会費用	20,525,522	23,613,622	△ 3,088,100
図書出版費	14,220,500	9,675,000	4,545,500
英文オンライン出版費	3,700,000	4,500,000	△ 800,000
会議費	2,718,900	4,821,756	△ 2,102,856
管理費	50,930,160	52,450,783	△ 1,520,623
給与手当	21,770,000	21,537,000	233,000
退職給付費用	590,000	550,000	40,000
外注費	2,000,000	2,091,540	△ 91,540
会議費	2,615,160	3,228,100	△ 612,940
表彰関連費用	500,000	1,100,000	△ 600,000
システム構築費	4,700,000	5,976,229	△ 1,276,229
維持会員企業交流会	110,000	150,000	△ 40,000
若手シンポジウム	50,000	200,000	△ 150,000
就業規定類改定	400,000	0	400,000
弁護士費用	175,000	0	175,000
旅費交通費	30,000	70,000	△ 40,000
通信運搬費	1,220,000	1,300,000	△ 80,000
消耗品費	430,000	500,000	△ 70,000
印刷製本費	300,000	330,000	△ 30,000
共益費	900,000	910,000	△ 10,000
賃借料	2,610,000	2,980,000	△ 370,000
租税公課	1,060,000	1,000,000	60,000
負担金支出	2,670,000	2,620,000	50,000
リース料	1,500,000	1,500,000	0
支払手数料	1,250,000	1,100,000	150,000
減価償却費	5,000,000	4,157,914	842,086
雑費	50,000	150,000	△ 100,000
予備費	1,000,000	1,000,000	0
経常費用計	113,002,682	115,536,161	△ 2,533,479
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 29,206,034	△ 24,481,817	△ 4,724,217
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 29,206,034	△ 24,481,817	△ 4,724,217

維持会員一覧表

(五十音順 2025年3月31日現在)

会員名	級	会員名	級
アート金属工業 (株)	E	キーパー (株)	E
Rtec-Instruments(株)	E	(株) キッツ	E
(株) I H I	A	協同油脂 (株)	B
(株) アイシン	E	(株) 小桜商会	E
愛知製鋼 (株)	E	コスモ石油ルブリカンツ (株)	A
アクロス (株)	E	(株) 小松製作所	D
アズビル T A C O (株)	E	三協オイルレス工業 (株)	E
(株) A D E K A	E	三洋化成工業 (株)	C
(株) アドヴィックス	E	山陽特殊製鋼 (株)	E
アフトンケミカル・ジャパン (株)	E	三洋貿易 (株)	E
(株) 天辻鋼球製作所	E	G S カルテックス	E
(株) 荒井製作所	E	シーエルシー (株)	E
イーグル工業 (株)	A	J F E スチール (株)	D
いすゞ自動車 (株)	C	(株) ジェイテクト	S
出光興産 (株)	S	シェフラー・ジャパン (株)	E
井上軸受工業 (株)	E	シェブロン・ジャパン (株)	B
インフィニウム ジャパン (株)	C	シェル・ルブリカンツ・ジャパン (株)	A
エイヴィエル・ジャパン(株)	E	シチズンマシナリー (株)	E
(株) エクセディ	E	島貿易 (株)	E
S C S K (株)	E	下西技研工業 (株)	E
エスティーティ (株)	E	ジャトコ (株)	E
N S K ワーナー (株)	E	(一社) 潤滑油協会	E
N O K (株)	S	神鋼造機 (株)	D
N O K クリューバー (株)	E	日鉄ケミカル & マテリアル (株)	C
N T N (株)	S	新日本理化 (株)	E
E N E O S (株)	S	スギムラ化学工業 (株)	E
E N E O S 和歌山石油精製 (株)	E	スズキ (株)	E
(株) 荏原製作所	E	スターライト工業 (株)	E
(株) エフ・シー・シー	E	(株) スタンダード石油大阪発売所	E
エボニック ジャパン (株)	C	(株) S U P W A T	E
(株) エリオニクス	D	住鉱潤滑剤 (株)	D
(株) LSI	E	住友重機械工業 (株)	D
オイレス工業 (株)	C	(株) ソミック石川	E
オートマックス (株)	E	第一稀元素化学工業 (株)	E
オスカ化学 (株)	E	大生工業 (株)	E
(株) スペースクリエーション	E	(株) ダイセル	E
カーギル・ジャパン合同会社	E	(株) ダイゾー ニチモリ事業部	E
花王 (株) 和歌山研究所	E	大同化学 (株) 技術研究所	E
カヤバ (株)	E	大同工業 (株)	D
川崎重工業 (株)	D	大東潤滑 (株)	E
(株) 川邑研究所	D	大同特殊鋼 (株)	E

維持会員一覧表

(五十音順 2025年3月31日現在)

会員名	級	会員名	級
大同メタル工業（株）	C	日本オイルポンプ（株）	E
（株）ダイナックス	E	日本カニゼン（株）	E
ダイハツディーゼル（株）	E	日本ケミカルズ販売（株）	E
大豊工業（株）	C	日本高周波鋼業（株）	E
ダウ・ケミカル日本（株）	E	日本サン石油（株）	E
高千穂精機（株）	E	日本パーカライジング（株）	E
（株）タンガロイ	E	日本ルーブリゾール（株）	B
（株）タンケンシールセーコウ	E	パーク・システムズ・ジャパン(株)	E
中央油化（株）	E	パレス化学（株）	E
築野オレオケミカルズ（株）	E	B A S F ジャパン（株）	E
（株）椿本チエイン	E	（株）樋口商会	E
D I C（株）	E	日立建機（株）	E
T P R（株）	E	（株）日立製作所	B
T H K（株）	E	日野自動車（株）	E
（公財）鉄道総合技術研究所	E	（株）フジキン	E
デュボンジャパン（株）	E	（株）不二越	E
デュボン・東レ・スペシャルティ・マテリアル(株)	D	富士ダイス（株）	E
（株）デンソー	D	富士フイルム（株）	E
（株）東芝	E	（株）ブリヂストン	C
東邦化学工業（株）	E	(株)本田技術研究所	A
（株）東洋金属工業所	E	マコー（株）	E
東洋ドライループ（株）	E	マツダ（株）	E
トーヨーエイテック（株）	E	丸和物産（株）	E
トヨタ自動車（株）	A	三井化学（株）	E
（株）豊田中央研究所	E	三菱鉛筆（株）	E
トヨタ紡織（株）	D	三菱重工業（株）	A
豊通ケミプラス（株）	E	三菱電機（株）先端技術総合研究所	E
トライス（株）	E	三矢精工（株）	E
（株）西島製作所	E	ミネベアミツミ（株）	D
日油（株）	E	武蔵精密工業（株）	E
日産自動車（株）	A	(株)村田製作所	E
日清紡ブレーキ（株）	E	（株）M O R E S C O	C
（株）ニッペコ	E	ヤマハ発動機（株）	E
日本アイ・ティ・エフ（株）	E	ヤンマーホールディングス(株)	E
日本クエーカーケミカル（株）	E	（株）U A C J	E
日本グリース（株）	C	ユシロ化学工業（株）	E
日本精工（株）	S	ユニオン石油工業（株）	E
日本製鉄(株)	E	（株）リケン	E
日本トムソン（株）	E	（株）リコー	E
日本ピストンリング（株）	E	リョービ（株）	E
（株）PILLAR	E		



発行日 2025 年 5 月

発行 一般社団法人日本トライボロジー学会

<https://www.tribology.jp>

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8

機械振興会館 407-2

TEL: 03-3434-1926 FAX: 03-3434-3556

E-mail: jast@tribology.jp